

立命館大学大学院 2018年度実施 入学試験

博士課程前期課程

文学研究科

人文学専攻/現代東アジア言語・文化学専修

※2019年9月入学 入学試験は、筆記試験の実施がないため掲載していません

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語 ※英語・中国語・朝鮮語の うちから1科目を選択						
			ページ	備考	科目	ページ	備考				
一般入学試験	9月	研究一貫	P.1～		英語	P.5～					
					中国語	×					
					朝鮮語	×					
	2月	研究一貫	P.3～		英語	×					
					中国語	×					
					朝鮮語	P.7～					
社会人入学試験	9月	研究一貫	×		/						
								2月	研究一貫	×	
	9月	高度専門									
								2月	高度専門		
	外国人留学生入学試験	9月	研究一貫								
								2月	研究一貫		
9月		高度専門									
					2月	高度専門					
学内進学入学試験	9月	研究一貫							/		
	9月	高度専門									
学内進学入学試験 (大学院進学プログラム 履修生対象)	2月	研究一貫			/						
	2月	高度専門									
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫			/						
	9月	高度専門									

立命館大学大学院
2018年度実施 入学試験
博士課程後期課程
文学研究科

人文学専攻/現代東アジア言語・文化学専修

※2019年9月入学 入学試験は、筆記試験の実施がないため掲載していません

入試方式	実施月	外国語 ※中国語・朝鮮語のうちから1科目と、 英語の計2科目		
		科目	ページ	備考
一般入学試験	2月	英語	×	
		中国語	×	
		朝鮮語	×	
外国人留学生入学試験	9月	/		
	2月	/		
学内進学入学試験	2月	/		

2019年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2018年9月15日

博士課程前期課程 人文学専攻
現代東アジア言語・文化学専修

「専門科目」

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (現代東アジア言語・文化学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度専門		

[解答用紙に問題番号を表記した上で、自由に配分して解答を作成しなさい。]

I. 受験者自身の研究テーマとその意義について、中国語または朝鮮語で簡単に説明しなさい。

II. 以下の20項目から5つを選択し、知るところを簡潔に説明しなさい。

- (1)『新青年』 (2)蔡元培 (3)梅蘭芳 (4)网络小说(網絡小説) (5)張学良
 (6)盧溝橋 (7)南巡講話 (8)魏德聖 (9)台湾語 (10)澳門特別行政区
 (11)四月革命 (12)日韓基本条約 (13)離散家族 (14)時調(シジョ) (15)皇民化政策
 (16)コリアン・ニューウェーブ (17)第1回南北首脳会談 (18)アジア主義
 (19)朝鮮プロレタリア芸術家同盟(KAPF) (20)『独立新聞』

III. 以下の設問から1つを選択して解答しなさい。

(1)1980年から現在までの中国における文学状況または文化現象(映画・ドラマ・音楽・演劇ほか)について、年代と分野をしばってタイトルをつけ、概説しなさい。タイトルは例えば「80年代の中国の小説について」「2010年から現在までの台湾映画について」など。

(2)“一国两制(一国二制度)”について概説しなさい。

(3)中国における簡体字の成立について、歴史的に概説しなさい。

(4)解放後の朝鮮半島における文学状況または文学現象(映画・ドラマ・音楽・演劇ほか)について、年代と分野をしばってタイトルをつけ、概説しなさい。タイトルの例は(1)を参照しなさい。

(5)「植民地近代」をめぐる最近の議論をふまえながら、植民地期朝鮮において行われた学術・芸術活動について論じなさい。

(6)在日朝鮮人文学について代表的な作家をあげながら概説しなさい。

2019年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2019年2月16日

博士課程前期課程 人文学専攻
現代東アジア言語・文化学専修

「専門科目」

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (現代東アジア言語・文化学専修)	前期課程	専門科目	□研究一貫 □高度専門		

【答案用紙に問題番号を表記した上で、自由に配分して解答を作成しなさい。】

I. 受験者自身の研究テーマとその意義について、中国語または朝鮮語で簡単に説明しなさい。

II. 以下の 20 項目から 5 つを選択し、知るところを簡潔に説明しなさい。

- | | | | | |
|----------------------------|----------|-------------|---------------------|----------------|
| (1) 五四新文化運動 | (2) 丁玲 | (3) 郭敬明 | (4) 中国作家協会 | (5) 鞏俐 |
| (6) 抗日戦争 | (7) 霧社事件 | (8) 広東語 | (9) 存現文 | (10) 朱徳熙 |
| (11) 朝鮮教育令 | (12) 板門店 | (13) 安重根 | (14) 国家総動員法 | (15) 郷歌 (ヒャンガ) |
| (16) 5・16クーデター | (17) 李光洙 | (18) 開城工業団地 | (19) 第二次日韓協約 (乙巳条約) | |
| (20) 日韓パートナーシップ宣言 (日韓共同宣言) | | | | |

III. 以下の設問から 1 つを選択して解答しなさい。

(1) 文革終結 (1976 年) から現在までの中国における文学状況または文化現象 (映画・ドラマ・音楽・演劇ほか) について、年代と分野を絞ってタイトルをつけ、概説しなさい。タイトルの例としては、「文革直後の中国の小説について」「2010 年代の台湾映画について」などとなる。

(2) 中国の「改革・開放」政策について概説しなさい。

(3) 中国における「普通話」の成立について、歴史的に概説しなさい。

(4) 開化期以降における朝鮮近代文学の形成過程について概説しなさい。

(5) 日本統治下の朝鮮において行われた皇民化政策に関して、具体的にどのような政策がどのような目的で行われたのか概説しなさい。

(6) 東アジアのグローバル化という観点から、現代韓国における大衆文化 (映画・ドラマ・音楽・演劇など) の特徴について論じなさい。

2019年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2018年9月15日

博士課程前期課程 人文学専攻
現代東アジア言語・文化学専修

「外国語」(英語)

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 選択した外国語の辞書(英語辞書)の持込は認める
(電子辞書・専門用語辞書は不可)
- ② 上記①の他には、筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (現代東アジア言語・文化学専修)	前期課程	外国語 (英語)	研究一貫		

問1 次の文章を日本語に訳しなさい。

'Annexation' in 1910 meant that the Great Han Empire had come to an end and Korea became simply one region, known as Chosen, within the Empire of Japan. The Japanese Residency-General of the protectorate period (1905-10) was reorganized as the Government-General of Korea as real and total colonial rule got underway. The Governor-General reported directly to the emperor and was almost completely free of control by the cabinet. He exercised absolute power in the colony, combining in his one office administrative, legislative and military authority. The men appointed as Governors-General of Korea were all army generals and navy admirals. The first Governor-General of Korea was Terauchi Masatake (1852-1919), who had been Resident-General at the time of 'annexation' and who stayed on as Governor-General. He was followed by a total of eight Governors-General through to 1945.

[出典]

Kang, M. (2005). *A history of contemporary Korea*. Folkestone: Global Oriental, p.5.
Reproduced with the permission of the publisher.

問2 次の文章を日本語に訳しなさい。

After seizing Korea by force, the Japanese chose the method of military rule in order to govern Korea. This approach, however, proved to be ineffective because of the Koreans' strong sense of national cultural pride. Despite the harsh nature of Japanese military rule, the Korean people rose up in the nation-wide protest of the March First Movement of 1919, fewer than ten years after annexation. Japan, caught off guard, did succeed in suppressing the movement by mobilizing strong military forces, but the Japanese concluded that they would not be able to control the Koreans by military rule and decided to change their policy. The new policy was one of using appeasement to divide and weaken the national liberation movement front.

This new approach, known as 'Cultural Politics', included such features as administrative reforms that targeted bureaucratism and formalism, measures to reduce discrimination in the recruitment and treatment of Korean officials, and steps to allow some degree of the expression of the will of the people through freedom of speech, press and assembly. It also involved efforts to improve public welfare through reforms in education, industry, traffic, police and sanitation systems, moves to foster public morals and build civilian power through a system of local self-rule, and displays of respect for Korean culture and customs.

[出典]

Kang, M. (2005). *A history of contemporary Korea*. Folkestone: Global Oriental, p.11.
Reproduced with the permission of the publisher.

2019年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2019年2月16日

博士課程前期課程 人文学専攻
現代東アジア言語・文化学専修

「外国語」(朝鮮語)

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (現代東アジア言語・文化学専修)	前期課程	外国語 (朝鮮語)	研究一貫		

問1 次の文章を日本語に訳しなさい。

한국에서 노래방에 이어 '방' 문화의 제2막을 열면서 피시방이 처음 등장한 것은 1994년 무렵이다. 퍼스널 컴퓨터는 서양에서 만들어졌지만 피시방은 한국의 독특한 공간이다. 그래서 영어로도 그냥 'PC Bang'이라고 표기한다. 다른 나라에도 '인터넷 카페'라는 것이 있기는 하다. 그런데 거기에서는 카페 공간이 주를 이루면서 인터넷 접속이 부가 서비스로 제공되는 데 비해, 피시방은 컴퓨터 그 자체가 핵심으로 자리 잡고 있다. ... (中略) ...

그런데 1997년 말 들이닥친 IMF 구제금융 사태를 계기로 사이버 환경은 비약적으로 도약하였다. 김대중 정부는 경제 위기를 타개하기 위한 돌파구로서 벤처 산업을 대대적으로 육성하였는데,

그 가운데 상당수가 인터넷 관련 기업이었다. 나중에 거품의 후유증을 앓기는 했지만, 당시 코스닥에 상장된 주식의 가격이 하늘 높은 줄 모르고 치솟으면서 한국의 경제는 새로운 성장 동력을 찾는 듯했다. 벤처 기업과 함께 인터넷 산업 발전의 또 다른 축을 이루면서 급속하게 번창한 것이 바로 피시방이다. 당시 많은 기업들이 인원을 감축하면서 실업자가 늘어나게 되었는데 이들 가운데 많은 이들이 피시방을 개업하면서 그 수가 갑자기 늘어났고 이것이 인터넷 문화를 크게 활성화하였다. 벤처 기업과 마찬가지로 피시방의 번창에도 정부의 지원과 유도가 뒷받침되고 있었다.

【出典】

김찬호(2007)『문화의 발견: KTX에서 점질방까지』, 문학과지성사, pp.82-83. 権利者の許可を得て掲載.

問2 次の文章を日本語に訳しなさい。

한국 사람들은 농경사회 문화와 더불어 유교 문화에도 깊이 젖어 있다. 그래서 '질서와 서열'을 중시하는 유교적 인식은 언어생활에서도 그대로 드러나게 되는데 나이가 높으신 어른에게 함부로 일대일로 대응하여 이름을 부를 수가 없는 것이다. ... (中略) ... 그리고 어르신과 나와의 관계에 따라서 그 호칭어를 결정하게 된다. 이는 인간관계를 일대일, 또는 개인주의적 사고관에 의해서 형성하는 것이 아니라 전체 가문의 구조 속에서 '그분'과 '나'와의 관계에 의해서 호

칭어를 정하게 되는 것이다. 그러므로 '증조할아버지'라는 말은 '그분과 나'와의 '관계'를 나타내는 말이기도 하고 '그분'을 칭하는 말로도 사용되는 것이다. 그러므로 영어의 'you, she, he, they'에 해당하는 대명사는 우리말에는 없다. 물론 이를 '당신, 그녀, 그, 그들'이라고 번역할 수는 있겠지만 이를 우리말 속에서 자연스럽게 녹여 사용하는 것은 현재의 언어 사용법으로는 불가능한 일이다. 가족 단위가 점점 작아지고 친척의 개념이 과거 농경 사회와 비교할 때 엄청날 정도로 그 세력이 약해진 지금 이러한 '친족 관계어'들은 그 위력을 잃고 있는 실정이다. 그러므로 현 시대에 부합하는 새로운 호칭어들이 만들어지고 있는데 예를 들면 '자기'와 같은 말이다. 그러니 외국인들이 한국어를 배우는 경우는 이러한 한국의 문화적 배경을 통하여 한국어의 호칭어에 대해서 이해하는 것이 바람직 할 것이다.

【出典】

조재윤ほか(2009)『외국인을 위한 한국문화 갈라잡이』, 박이정, pp.288-289. 権利者の許可を得て掲載.